

平成24年 上半期 火災・ 救急統計

平成24年1～6月までの火災・救急件数をお知らせします。

火災件数64件

平成24年上半期における火災件数は64件で、前年と比べると28件減少しています。これは約3日に1件の割合で火災が発生したことになります。

【出火原因】

全火災64件を出火原因別にみると、「こころ」12件(18.8%)、「放火」7件(10.9%)、「たばこ」・「ストーブ」・「電灯などの配線」・「たき火」がそれぞれ5件(各7.8%)の順となっています。また「放

火」と「放火の疑い」を合わせると11件となります。

【火災による死傷者】

火災による死者は4人(前年比2人増)、負傷者は9人(同比4人減)となっています。

救急出場1万1095件

平成24年上半期における救急出場件数は1万1095件で、前年と比べると287件増加しています。搬送人員は1万291人で、前年と比べると351人増えています。これは、1日平均61.0件、

【事故種別】

救急出場件数を事故種別でみると、急病6706件、一般負傷1440件、交通事故1380件の順となり、この3種だけで全体の85.9%を占めています。

お問い合わせは、火災については消防課 ☎9269247・FAX 9269163、救急については消防防課 ☎9269227・FAX 9269188へ

統計の詳細は市ホームページをご覧ください



約23分37秒に1回の割合で救急隊が出場したことになります。



村上 智則さん (附属中1年) 6月29日受賞

同コンクール小学5・6年生部門 金賞



久保 真希さん (旭中2年) 6月29日受賞

第13回シヨパン国際ピアノコンクールinASA-AコンチエルトA部門 金賞

おめでとう！ かがやき 松山大賞

第18回全国シニアソフトボール沖縄読谷大会 優勝

石井体協古希 7月2日受賞



黒河 香菜選手 (松山東高教員) 6月28日受賞

第15回世界剣道選手権大会 女子個人 準優勝

「誇れる」地域の宝 湯築・道後編



多くの市民に親しまれている道後公園

湯築・道後地区は、心部から市内電車で約10分、人口2万5425人、世帯数1万2573世帯(7月1日現在)で、道後温泉本館や道後公園、子規記念博物館、宝蔵寺、伊佐爾波神社などがあり、多くの観光客が訪れる地区です。3000年の歴史を誇る

名所旧跡が身近にあるまち

湯築・道後地区は、中心部から市内電車で約10分の温泉といわれます。白鷺が足の傷を癒やしたのが由来といわれ、白鷺が舞い降りたといわれる鷺石は道後温泉駅前の放生園に残されています。国の重要文化財に指定されている道後温泉本館は、初代道後湯之町町長の伊佐庭如矢が、町民の反対にもひるむことなく100年先の道後の繁栄を見据え、明治27年に建設しました。平成6年には建設100周年を記念して如矢の像が建てられ、本館北側に設置されています。

道後温泉は、日本最古の温泉といわれます。白鷺が足の傷を癒やしたのが由来といわれ、白鷺が舞い降りたといわれる鷺石は道後温泉駅前の放生園に残されています。国の重要文化財に指定されている道後温泉本館は、初代道後湯之町町長の伊佐庭如矢が、町民の反対にもひるむことなく100年先の道後の繁栄を見据え、明治27年に建設しました。平成6年には建設100周年を記念して如矢の像が建てられ、本館北側に設置されています。



道後を見守り続ける伊佐庭如矢像



ハマボウフウを守るための看板作り

し、絶滅危惧種に指定している県もあるほどの貴重な植物です。このハマボウフウを守り、育て、増やしていこうと、興居島の子どもたちは、地域の人たちと一緒に、さまざまな活動に取り組んでいます。

地域と守り、育てる ハマボウフウ

興居島小の前は、キラキラ輝く瀬戸の海と白い砂浜。その海岸には、初夏になるとカリフラワーのような白い小花「ハマボウフウ」がたくさん咲いています。ハマボウフウはセリ科の海岸植物で、かつては県内の砂浜に群生していましたが、海浜の浸食や海の汚れなどにより著しく減少

地域で育つ松山っ子



第22回 興居島小学校

児童数 男13人・女22人・計35人 (平成24年7月1日現在)



地域の人と一緒に雑草を引く児童

松山っ子の声

あせをいっばいかいて、かわいいハマボウフウの花についたごみを取ったり草を抜いたりしました。

(3年女子)

今年は種ができたから、ほくの家の近くの海岸にもまいて、どんどん数を増やしていきたいです。

(4年男子)